会議レポート

ソフトウエアジャパン 2015 報告

情報処理学会が主催するソフトウエアジャパン 2015 は，2 月 3 日にタワーホール船堀で開催された．このシンポジウムは 2004 年に始まり，主に IT プロフェッショナル（実務家）や産業界の参加者にとって興味のあるテーマで毎年開催されている．2014 年度は，「ICT によるイノベーションの創出」をメインテーマに，日本における科学技術や社会におけるイノベーション創出にかかわる制度的，文化的課題，日本発 IT ベンチャーの課題，人材育成の課題などに関して幅広く議論が行われた．筆者は，本会理事として総合司会を務めた．以降，簡単にセッションの中身を報告する．

シンポジウムは 2 部構成になっている．前半は，学会や産業界をまたがるテーマについて議論する同学会のコミュニティである IT フォーラムの各グループによるセッションである．今回は，サービスサイエンス，コンタクトセンター, IT 未来人材, 高度 IT 人材育成, ビッグデータ活用実務, ユニバーサルデザイン協創フォーラムの 6 つのグループがセッションや展示を行った．それぞれのグループは通年で活動を行っており，このソフトウエアジャパンが広く参加者にその活動を紹介する場となっている．それぞれ趣向を凝らし，活発な議論が行われたのが印象的であった．

後半は，産官学から招待された講演者がメインテーマに沿って講演を行い，その後，全員によるパネル討論が行われた．今回のシンポジウムで特筆すべきは，メインセッションをニコニコ動画で生放送するという試みである．直前の告知にもかかわらず最終的に 30,000 を超えるアクセスがあり，リアルタイムで流れる聴取者からのコメントも興味深かった．なおこの放送はアーカイブされており，現在でも視聴できる．

メインセッション最初の講演者は，ニコニコ動画を運営する（株）KADOKAWA・DWANGO の代表取締役会長である川上量生氏で，「ICT イノベーションとビジネス」というタイトルで基調講演を行った．冒頭で，日本の Web 企業が革新的なイノベーションをなかなか起こせない理由の 1 つは，多くの企業が「文系」であり，いわゆるテクノロジーカンパニーが少ないことではないかと指摘した．さらに，ニコニコ動画のこれまでの歩みと培われてきた技術や将来の方向性として，映像配信におけるユーザとの同期した双方向性やブロードキャストからパーソナライズされたユニキャストへの移行を挙げ，その技術的課題とそれに対する取り組みについて説明した．次に，シスコシステムズ合同会社専務執行役員の木下剛氏が「スマートシティに関する世界のベストプラクティスご紹介」というタイトルで，インターネットが，Internet of Things（IoT）から Internet of Everything（IoE）へと進化することにより，社会や産業がディジタル化されていくと述べた．スマートカー，スマートホームなど，IoE によって創出されるスマートサービスの例を挙げ，シスコが取り組んでいるいくつかの事例が紹介された．政策研究大学院大学および科学技術振興機構の有本建男氏は，「東京オリンピック・パラリンピック 2020 の先を見据えて」というテーマで，ディジタル技術と科学技術のパラダイムチェンジである Science 2.0 や，第 4 次産業革命とも言われる Industrie 4.0 に代表される産業や社会の変革について論じた．最後に，インフォテリア（株）CEO の平野洋一郎氏が，「もう日本のソフトウェアは海外で羽ばたくチャンスはないのか?」というタイトルで，日本とアメリカのソフトウェア企業の違いに触れながら，破壊的イノベーションを阻害する以下の 3 つの罠を紹介した．

- 「会議の罠」合意に時間がかかる．責任の所在が曖昧になる．
- 「顧客の声の罠」顧客の声は「今」欲しい物であり，まだ形がないものに意見を言えない．
- 「オンリーワンの罠」価値が高ければ競合は必ず発生する．ナンバーワンには価値がある．

最後に，4 名の招待講演者と産業技術総合研究所の後藤真孝氏からなるパネル討論が行われ，ソフトウエアジャパン 2015 大会委員長の慶應義塾大学徳田英幸教授が司会を務めた．「日本ではなぜ破壊的なイノベーションが起こらないのか?」という徳田教授からの問いに対して，各パネリストの答えは以下であった．

- 日本では難しいと感じる．そもそもアメリカ以外ではあまり出てきていない．これは技術レベルの差というより環境の差であり，その差を埋めるには日本のユニークさを押し出していく必要がある．（川上氏）
- ディジタル化の流れの中で，日本が乗り越えないといけないのは，対面でのビジネスに囚われすぎており，スピードについていけてないということである．（木下氏）
- 自分の限界を知りつつあらゆる意味で境界を超えて進歩していくことが大事．（有本氏）
- こうある「べき」論が多く，こうし「たい」が重視されていない．「たい」を増やすには，多数意見に惑わされず多様性を重視することが大事 .（平野氏）

最後に，産業界における顕著な技術貢献に対して贈られるソフトウエアジャパンアワードの表彰式が行われた．オープンソースソフトウエアの分野での多大な貢献に対して日本電信電話（株）の藤田智成氏，プログラミング言語 Egison の設計・開発に対して楽天（株）の江木聡志氏に，ソフトウエアジャパンアワードが贈られた．

最近，ソフトウェアの世界で大きな変化が起きていることを実感することが多い．その変化によって社会や産業そのものも確実に変容しつつある．ICT によるイノベーションの創出というテーマでの産官学からの第一線の方々の講演は，まさにこの動きを裏付け，今後の日本の在り方を語るものであった．次回のシンポジウムにも期待したい．

（浦本直彦／日本 IBM ソフトウェア＆システム開発研究所）